

こころとからだに、
おいしいものを。



2026年4月16日

ダイドーグループホールディングス株式会社 第51回 定時株主総会 質疑応答（要約）

Q1. 連日報道されている中東情勢について、ダイドーグループに与える影響について教えてほしい。

A1. 今般の中東情勢に際し、当社グループにおいても、原油価格の高騰などにより、各種原材料価格の上昇につながる可能性はある。

現時点では、商品の生産や供給が滞る可能性は大きくはないものの、中東情勢の不安定な状態が長期化した際は、影響が出る場合があるため、今後の動向を引き続き注視する。

Q2. 第3号議案にて「当社株式の大規模買付行為への対応策（買収への対応方針）継続の件」が上程されたが、コーポレートガバナンス・コードでも株主の利益最大化が求められている中、本当に必要か。

A2. 当社株式の大規模買付行為が発生した際、大規模買付者の提案に応じるか否かは、最終的に株主の判断に委ねられるべきであると考えおり、当社の企業価値向上および株主共同の利益に合致するものであれば、否定するものではない。他方、株主に不利益を与える大規模買付行為については、一定の対応が必要であると考えており、手続きの透明性を担保するためにもルールは必要であると考えている。

Q3. 国内飲料事業の収益性改善を進めるため、不採算の自販機を撤去し、優良なロケーションへの設置を進めていくとのことだが、優良なロケーションへの展開は容易にできるものなのか。

A3. 日本国内の稼働自販機台数は減少傾向にあるが、それでも約200万台が現在も設置されており、利用者の多い自販機は多数存在していると捉えている。また昨今、夏場を中心に猛暑が続く中、工事現場等での暑熱対策など、自販機の設置ニーズが高まっているロケーションもある。そうした設置先のニーズの把握や掘り起こしによって、より利用率の高いロケーションの開拓を進め、優良ロケーションを増やしていく。

Q4. 訪日外国人が増加する中、外国人が自販機を利用するシーンを街中で見かける。ダイドードリンクの自販機には、英語表記が少なく、コーヒーをはじめ商品の特徴が伝わっていないのではないか。

A4. 関西では大阪や京都など、訪日外国人が多く訪れる場所の自販機には、ご利用方法などを記載したステッカーを貼付する取り組みを継続している。今後、日本国内において、少子高齢化が進む中、日本国内で働く外国人の増加が見込まれるため、引き続き商品パッケージや自販機に取り付ける商品見本の表記等、工夫を凝らしていく。

【注意事項】

本資料に記載の内容は、フェアディスクロージャの観点から、ダイドーグループホールディングス株式会社 第51回 定時株主総会における質疑応答をもとに、当社の文責により趣旨を要約（順序不同・補足・補正）したものです。なお、本資料に記載されている当社グループの計画・将来の見通し・戦略などのうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、将来の業績に関する見通しであり、これらは当社において発表日時点で入手可能な情報による当社経営陣の判断および仮定に基づいています。従って、実際の業績は、不確定要素や経済情勢その他リスク要因により、大きく異なる可能性があります。また、本資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定はご自身の判断でなさるようお願いいたします。